



復刊第119号
題字 吉岡弥生

巻頭言

副会長 大原 一枝

平成元年度の日本女医学会第三十四回定時総会は、千葉市において盛會裡に挙行されました。地元の日高支部長はじめ役員、会員諸姉のお心こもったおもてなしに、参会者一同大満足で過ごさせていただきました。お骨折りのほどありがたく御礼申し上げます。

正式な記録は本号に別掲されますので、ここには個人の印象と感慨を述べさせていただきます。

ここ数年、総会に出席のつとむことですが、年ごとに会が立派になって行くことで、吉岡弥生賞、荻野吟子賞、学術研究助成、講演研修会などが着々と実行されていることにまず深い感慨を覚えました。吉岡、荻野の各賞それぞれ私ども同業のお仲間の中に、かくれた貴いお仕事を

なさった方々があることを知り、敬愛の念を覚えますが、本年度私は、学術研究助成を受けられた若い方々のお姿を目前にして、もろもろの感動がこみあげて来て思わず涙が出ました。限りない可能性を秘めたこれから若い方々が、このささやかな助成を励みとしてそれぞれ立派な研究にとり組まれて成果をお挙げになるよう祈ります。

さて、総会に先立って行なわれた評議員会は、例年同様の時間的な制約のため、非常に慌しく、出席評議員の中にはいささか物足りぬ思いをされた方もあったかと思えます。会員の声として注目をひいたのは品川支部の橋元博子先生からのご発言で、昨年度の総会における役員選挙を経験して、選挙制度が現行のままでは

いかどうかというご意見でありました。すなわち総会出席者のみによる投票で役員が決められている現行制度に対して、出席不能の場合在宅で投票できるようにならないものかという問題提起でありました。このことは単に東京の会員のみならず、さらに遠隔の地の会員にとつては、在京会員との隔差を痛感しながら会員としての権利を行使する上での著しい不公平を耐え忍んできて久しいのです。

私自身、長い間このことを痛感しておりましたので、理事会で、また当時の会長に数度にわたつて、何とか通信投票に変更できないものかと思いを述べたりお願いしたことがあり、今回のご発言を共感をもってうけとめました。

戦後、日本女医学会の再建当時から微力ながら本会にかかわつてまいりましたが、当初は話し合いで、旧女子医専を母体として理事や副会長を選出し、会長だけは選挙で選出していたような記憶があります。そのような時代から現行のコンピュータによる開票算定の方法が定着するまでにいたつた訳です。

東京女子医専、帝国女子医専、大阪女子医専の三校の卒業生が母体となつて日本女医学会を結成した時代から、戦中に各地で女子医専が開設され、これらから多くの卒業生が出たほか、かつて女子の入会を拒んで来た国公立大学も戦後は女子の入試受

もくじ

巻頭言	大原 一枝 (1)
第三十四回日本女医学会定時総会 総会挨拶	山崎 倫子 (2)
定時総会議事録	(5)
各賞と研究助成授与	
吉岡弥生賞を受賞して	竹宮 敏子 (6)
吉岡弥生賞を受賞して	今 忠正 (7)
荻野吟子賞を受賞して	宮崎 安子 (7)
学術研究助成を授与されて	西川 雅子 (7)
学術研究助成を授与されて	西澤 恭子 (8)
学術研究助成を授与されて	齋藤加代子 (8)
学術研究助成をうけて	児玉 浩子 (8)
定時総会千葉開催を終えて	日高 歐子 (9)
懇親会について	久田 タカ (9)
成田山新勝寺コース	熊谷 貴代 (10)
房州コースに伴して	山本みどり (10)
お別れパーティ記	川村 章子 (11)
第三十四回日本女医学会定時総会に出席して	金子ミサヲ (11)
哀悼の辞	山本 杉 (12)
平瀬文字先生に感謝状	阿部 和枝 (13)
会員著書紹介／松本文絵著『幸福な性』を読んで	大原 一枝 (14)
○第21回国際女医学会会議参加ご案内 (2)	○第21回国際女医学会会議への若い女医の参加援助 (3)
○吉岡弥生賞推せんについて (4)	○吉岡弥生賞規定 (5)
○荻野吟子賞推せんについて (4)	○荻野吟子賞選考規定 (6)
○第10回学術研究助成のご案内 (12)	○第12回学術講演研修会のお知らせ (10)
○日本女医年金のおすすめ (13)	○公開講演会のお知らせ (15)
○公開講演会のお知らせ (15)	
○理事会議事録	(13)
○緊急理事会議事録	(15)
○評議員会議事録	(16)
○会員動静	(16)
○編集後記	(16)

第三十四回日本女医学会定時総会

総会挨拶



●山崎会長

験をみとめるようになって以来、すでに長い年月を経て時代は大きく変わりました。もはや旧三女子医専卒の大集団のみを役員選出母体として意識すること自体、根拠がなくなり、また老齢化の傾向は単に日本の社会

だけでなくわが日本女医学会にもみられます。幸いここ数年は若い会員の入会もふえ、役員も多少若くなったのはうれしことです。しかしながら今後数年拱手傍観をつづけるなら、わが日本女医学会は老女医の集団と化するかも知れません。そしてだんだん活力を失うおそれがあります。会員の皆さま。危機感を持って下さい。今私ども役員はもろろん、会員の皆さまそれぞれが危機感をもって若い年代層の会員を新会員として迎へ入れるようご努力をお願いいたします。各人が周囲を見廻して見て一人

ずつ新会員をふやすことができれば、来年は会員数が五千人を越えます。そしてさらに二十一世紀までの十年間に会員数一万人という目標も決して夢ではありません。会員数が一万人に達すれば、今の五倍の事業ができるのです。頑張れば十年後の二万人は決して実現できない数字ではありません。高い目標を掲げて、毎年、一歩ずつでも前進いたしましょう。皆さまのご健康を祈り、ご協力をお願いして本文を終わります。

会長 山崎 倫子

皆様、こんにちは。本日は全国各地から多数の会員の皆様のご出席をいただき、第三十四回定時総会が開催できますことは大変な喜びでございます。まず、この度総会をお引き受けくださいました千葉支部に対して、厚くお礼を申し上げます。総会の運営、社交行事、あるいは終了後の観光全般にわたってご苦勞いただきました支部長、日高歐子先生並びに千葉支部の会員の皆様方、本場にありがとうございました。

昨年、役員改選が行なわれまして、引き続き私が会長を務めさせていただきますことになりました。新理事七名を迎え、新旧理事三十五名一同新たな気持ちで女医学会のますますの発展を期して努力しておりますことを、まずご報告させていただきます。公共衛生活動の一環として作成した禁煙ポスターも大変ご好評をいただきましたが、ポスター配布に関して、各支部長先生にいろいろご面倒をお煩わせしましたことをおわび申し上げます。

第21回国際女医学会会議 参加ご案内

ソウルで開催されます国際女医学会会議まで一月余となりました。千葉市で開催されました日本女医学会総会に、韓国女医学会から、朱良子氏他四名の役員が参加され、日本からは非百名以上参加いただいたと、ご挨拶がありました。すでに皆様に日本交通公社および阪急交通社企画による会議後の小旅行案を含む案内をお送りいたしました。概算費用の他に、登録費三十四万ウォン(約六二、〇〇〇円)と日本女医学会事務局雑費として三、〇〇〇円が必要となります。詳細につきましては、同封のパンフレットをご覧下さい。また登録業務は、それぞれの旅行業者が担当いたします。会議参加ご希望で登録が済みでない方は、同封の申込書を至急女医学会本部へお送り下さい。

るとともに改めて感謝申し上げます。また会員の皆様方にも何かと戸惑うことが多かったことと思いますが、大変失礼をいたしました。なお、このポスターがまだ届いていないとおっしゃる方は、お申し出いただければ、本部の方から早急に送らせていただきます。なお、余部もでございます。大変美しいポスターでございます。患者さんを見て、す

てきなポスターねえと。すてきなポスターだけど、読んでよと言つと、ノースモーキング、ああ、禁煙、なんてなことを言われちゃうんでございますけど、クリーン・ジャパンをつくってという意味合いから、あのすばらしいものをつくらせていただきますので、どうぞ折に触れてご宣伝いただきたいと思つてます。

昨年十一月の下旬、国際女医学会の西太平洋地域会議がマニラでございましたことについては、すでに会誌の百十七号でご報告いたしました。おりでございまして、大変印象に残りましたことを一つだけ追加ご報告させていただきますと思つてます。

ご承知のように、七千余の島からなるフィリピン国は大変貧しい国でございますが、そこに十支部ある女医学会のそれぞれの会員が率先して、貧しい地域、あるいは災害を受けた地域、あるいは無医地区において、母子保健、予防接種、あるいは食糧援助、栄養指導など、各人の技術と時間と資金を割いて援助しておられました。大変立派な奉仕活動をしていらつしやるのに、感心させられたのでございます。国際学会で見かけるフィリピン女医学会の皆さんは、ご存知のように、羽のついたような美しいお洋服を着飾って、華やかで社交的で特権階級としての生活を享受していらつしやるだけのように見做しがちでしたが、皆さんそれぞれのできる範囲で援助活動をしていらつしやることに感動をしたわけござ

います。私自身の不明を恥じたわけでございます。宗教的背景によるものでしょうか、皆さん自分たちの持つ医師であるという使命を社会に還元していらつしやることに敬意を表し、ここで一言述べさせていただきます。次第でございます。

さて、本年度の吉岡弥生賞は、医学に貢献された方として、東京女子医科大学内科教授、竹宮敏子先生に差し上げることになりました。また、社会に貢献された先生としては、今鷹子先生にお贈りするに決まりました。

竹宮敏子先生は、昭和三十六年、東京女子医科大学を卒業になり、四十一年に大学院を終了、以来、自立神経機能障害の臨床、特に血管運動神経調節障害の臨床生理学的研究を一貫して続けられ、昭和六十年に東京女子医科大学の第二内科学教授ならびに脳神経センター神経内科教授に就任されました。先生の研究の主たるものは脈波でございます。特に指尖容積脈波についての研究では、斯界の第一人者であります。昨年、第一回のワークショップにおいて、多くの臨床経験のもとに老人性痴呆の臨床をご講演いただいたことは参加者の記憶に新しいところでありました。

今鷹子先生は、昭和六年、東京女子医専を卒業されました。昭和二十二年、ご夫君の没後、一時中断されていた医学の道に戻り、小児科医として研修され、二十四年からは家庭

医、学校医、小児科医として幅広く活躍をされていらつしやいました。早くから他校出身の女医たちにも呼びかけて北海道女医学会を設立され、後の日本女医学会北海道支部の基礎になるものをおつくりいただいたわけでございます。その間、数年にわたって、近隣の女医と図つて無医地区に無料診療班を結成され、医療奉仕活動を続けられました。また、後年、札幌に移られてからは、札幌市民の健康を守る集いの会長として活躍なさるなど地域医療、健康教育、社会奉仕などに大きく貢献されてこられた方でございます。栄えある吉岡弥生賞の決定を待たずに逝去あそばされましたことは誠に残念なことでございます。謹んで先生のご冥福をお祈りしたいと思います。本日はご令息がおいでになってくださったお礼です。

さて、荻野吟子賞でございますが、これは東京女子医大を昭和三十五年にご卒業になりました宮崎安子先生に決定いたしました。現在、宮崎安子先生は日本女医学会として加入いただきましたが、この決定をいたしましたのは、まだ女医学会でなかったときでございます。ご承知のように、荻野吟子賞は会員であるなしを問わずに、社会に大きく貢献されていらつしやる方、社会に日本女医学会の名を揚げるような仕事をされた方に差し上げるようになっております。先生は長年にわたつて小児科医としての使命感と深い人類愛を一身に

第21回国際女医学会会議への 若い女医の参加援助

会期 一九八九年九月三日(日)〜八日(金)
開催地 韓国ソウル市

国際女医学会会議でヤング・フォーラムが持たれます。若い女医さんの他に女子医学生生の参加も歓迎いたします。

- 登録費が国際女医学会本部から支給されます。
- 三名の方にソウルまでの往復旅費の一部を日本女医学会が援助することになりました。
- 会期中に開催される若い会員によるワークショップ(各国交流促進手段について)への出席を義務づけられます。

*希望者は国際連絡書記へお申し出下さい。
(〒173東京都板橋区加賀2-11-1
TEL〇三(九六四)二二二一 内線(二四四五)
帝京大学医学部薬理学教室 藤井 儔子)

*会員の皆様も若い会員、身近な学生さんにおすすめ下さい。

これは選考委員一同慎重に審議をいたしました結果、児玉浩子先生、斎藤加代子先生、西川雅子先生、西澤恭子先生の四名に助成することに決定いたしました。今後一層研究に励まれて、医学の進歩に大きく寄与されることを期待したいと思います。

吉岡弥生賞推せん

平成元年吉岡弥生賞授賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。締め切り期日は本年十二月二十五日までに願います。なお次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

- 一、自筆履歴書
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員。
- ロ 社会に貢献した現会員。
- 三、推せん理由

荻野吟子賞推せん

平成元年荻野吟子賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。締め切り期日は、本年十二月二十五日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもつて提出下さい。

しやると思いますが、昭和二十七年に発行されたものでございますが、廃刊になっておりましたものを、復刊をすることを計画中でございます。それにその後の年表などをつけ加えましたものを作成したいと思っております。明治三十五年に創立された日本女医学会の歴史をも含め、日本女

医の歴史並びに大勢の先駆者、先輩たちが男女差別との闘いの中から今日まで育ててくださった、また厳しい社会情勢の中で交流を深めながら連帯し、国際的にも国内的にも多くの業績を残してこられた記録を刊いたしますことにより、皆様にお読みいただければ、深い感動と、歴史を知ることからまず始めなければならぬと思っております。

吉岡弥生賞規定

*規定が一部改正されましたのでお知らせいたします。

- 一、吉岡弥生賞は、龍知恵子女士(当時日本女医学会会長)が昭和四十二年五月十三日の総会において本会の事業として提案したものである。
- この提案はその後、日本女医学会の事業として制定することになったところ、故吉岡弥生先生の愛弟子であり、特に先生の徳を慕う荒川あや女史がこの趣旨に感激され、翌昭和四十三年五月十八日の総会席上、その基金として金一千万円の寄贈を申し出られた。本会は満場一致で感謝をもつてその篤志を拝受することを決議した。
- 昭和六十二年十月女史は更に金一千万円を追加寄贈され基金は二千万円となった。

- 二、荒川あや女史のご意向に従いこの金額を基金としその利子をもって年毎の副賞金並びに表彰経費に充当することになった。
- 日本女医学会は、吉岡弥生賞を事業の一部として永続し、故吉岡弥生先生の偉業を永遠に伝え、その遺志の発揚に資するものである。
- 三、本賞制定に際し龍知恵子、荒川あや女史の功を賛え終身審査委員を委嘱した。

- 第一条(資格) 吉岡弥生賞は本会の目的である左記の項目達成に著しい貢献をした日本女医学会会員、または団体を対象として贈与する。
- 一、医学に貢献した会員
- 二、社会に貢献した会員

- 第二条(表彰・副賞) 一、副賞は一名四十万円とする。
- 二、表彰状・楯・副賞は日本女医学会の席上において会長より授与する。
- 第三条(審査委員会・審査委員) 審査委員会は九名(会長・副会長三名・理事五名)の委員をもって構成し、その任期は三年(日本女医学会役員任期と同じ)とする。
- 審査委員会は推薦された候補者について書類選考し、多数決をもって受賞者を決定する。
- 第四条(候補者の推薦・締切) 候補者の推薦は日本女医学会理事及び支部長に委嘱する。
- 推薦委員は十二月二十五日までに候補者氏名と必要書類を審査委員会に提出する。
- 第五条(提出書類) 一、候補者の自筆履歴書(写真貼付)並びに業績書
- 二、推薦書類には推薦理由と二名以上の推薦委員の氏名・捺印を必要とする。
- 書類様式は問わない。

来には、女医の割合は一〇・五%から二〇%になることは明白なことでございます。しかるに全女医数二万人のうち、日本女医学会にご入会いただいておりますのは一五%にも満たないのが現状でございます。どうぞ、評議員の皆様、会員の皆様、新しい若い会員をぜひご入会いただくように勧誘いただきたいと思うのでございます。どうぞ皆様、一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昭和六十二年の統計によりますと、日本女医の数は約二万人に達しておりますけれども、それは全医師のわずか一〇・五%にすぎないわけでございます。ご承知のように、近年、女子医学生数の増加は非常に早い勢いで増えておられます。学校によっては二〇%、三〇%、四〇%も女医が占めているというところもございまして、したがって、近い将来には、女医の割合は一〇・五%を超えるところの臨床医は、常に社会、住民との接触を持つております。そして、その接触の中から、私たちはいろいろ話をし、啓蒙をし、

定時総会議事録

- 日時 平成元年5月20日(土)
- 場所 ホテルニューツカモト(千葉県千葉市千葉港七二一)
- 午後一時開会
- 司会 白橋美笑
- 出席者 二、八五一名
- 出席委任数 一九〇名
- 記名委任数 七二五名
- 白紙委任数 四七一名
- 以上のとおり日本女医学会定款第二十七条の定足数に達し、総会が成立する旨の報告あり、開会を宣す。
- 会長挨拶 山崎倫子
- 物故者への黙禱 昭和六十三年物故会員に黙禱。
- 報告 一、会務報告および事業報告 三好美春
- 配布すみの資料にもつき報告
- 二、昭和六十三年度特別会計報告 石川文字
- 吉岡弥生賞基金会計 国際女医学会記念事業基金会計
- 年金会計 ルーベンタン会計
- 以上について配布すみの資料にもつき報告
- 三、国際連絡書記報告 藤井儋子
- 議長団選出 丸茂昌子、町田俊子、大橋鎮子
- 議長団、議長団席に着く
- 議事録署名人選出 清水五百子、斎藤歌子
- 議事 第一号議案 一、昭和六十三年度一般会計収支計算書 配布すみの資料にもつき報告
- 二、剰余金処分案 野本照子
- 次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決
- 〈会計監査報告〉 添田百枝

監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。

第二号議案

平成元年度事業計画案

(庶務部)

八木貞子

会員増加推進

(学術部)

石津澄子

講演研修会

研究助成

ワークシヨップ

(事業部)

橋川ふさ子

へき地診療への助成

公衆衛生活動

支部助成

荻野吟子賞

年金

ルーベンタン

(渉外部)

野沢良美

国内および国際交流

(広報部)

久保田くら

機関紙の発行

以上原案どおり可決

第三号議案

平成元年度一般会計収支予算案

二村美美江

原案どおり可決

第四号議案

次期および次次期総会開催地について

山崎倫子

次期開催地—宮城支部

次次期開催地—東京

原案どおり可決

発言

橋元博子会員より今後の役員選挙方法について検討されたい旨要望あり、他の会員からも同意見あり。

表彰

一、吉岡弥生賞受賞者

竹宮敏子、今 鷺子

二、荻野吟子賞受賞者

宮崎安子

三、学術研究助成金授与者

西川雅子、西澤恭子、斎藤加代子、児玉浩子

閉会の辞

佐藤千代子

午後三時閉会

議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の署名捺印。

平成元年五月二十日

議長 長 丸茂 島子

議事録署名人 清水五百子

議事録署名人 斎藤 歌子

各賞と研究助成授与

吉岡弥生賞を受賞して



東女医内支部 竹宮 敏子

平成元年五月二十日、第三十四回日本女医学会総会において吉岡弥生賞をいただきました。本賞は弥生先生の高邁なご意志を継ぐ高弟の方々により設定されたものとなり、深い感謝の念にたえません。私の研究の芽は学生時代、生理学実習で血圧の聴診法に対する疑問から生じました。第一内科の大学院時代に生理学教室で各種の脈波計による研究方法を経験させていただいた後、いつも臨床と脈波を並行させながら過ごしてまいりました。

昭和四十六年頃吉村正治教授(現独協医大)を中心とした臨床脈波研究会の発足と同時に参加させていた

荻野吟子賞選考規定

*規定が一部改正されましたのでお知らせいたします。

明治維新以来西洋文明の大幅な導入にもかかわらず、日本では旧来の男尊女卑の思想が根強く支配していた。

その時代に荻野吟子は医学を志し、幾多の苦難や妨害に耐えて明治十八年医術開業試験に合格、女性として初めて公やけに医師の資格を与えられた。

昭和五十九年公許女医誕生百年を記念し、社団法人日本女医学会は荻野吟子の偉業を称え、その名を永久に伝えるため『荻野吟子賞』を制定する。

第1条(資格)

荻野吟子賞は、独自の活躍をもって女医の地位向上に著しい貢献をした者に与えるものとし、原則として日本女医学会会員とする。但し特別の場合には非会員をも考慮する。

受賞者は原則として年一名とし、日本女医学会総会の席上で表彰する。

第2条(副賞)

副賞は金十万円とする。但し受賞者が複数の場合はこれを折半する。

第3条(審査委員、審査委員会)

審査委員は七名(会長・副会長三名・事業部常任理事二名・前会長)をもって構成し、その任期は三年(日本女医学会役員任期に準ず)とする。

審査委員会は推薦された候補者について書類審査し、多数決をもって受賞者を決定する。

第4条(候補者の推薦、締切)

候補者の推薦は日本女医学会理事と支部長に委嘱する。推薦者は毎年十二月二十五日までに候補者氏名と必要書類を添え、審査委員会に提出する。

第5条(提出書類)

候補者(被推薦者)の経歴・業績と推薦の理由を記載し、二名以上の推薦者の氏名・捺印をもって提出書類とする。様式は問わない。

じてどの部位の脈波でも微分(速度)や二次微分(加速度)として記録できるようにした一つの方法を持ってあります。これに物理的あるいは薬物負荷を加えることで、研究の範囲が広がります。研究の詳細は、紙面の都合上、省略いたしますが、興味をお持ちの先生には、東女医大誌「神経内科十五周年記念号(本年七月出版予定)の中の総説をご覧いただきたいと存じます。

さまざまな山崎倫子会長をはじめ、ご推薦下さいました理事の諸先生方に厚く御礼申し上げます。これを機会に、また新たな気持ちで内科医の原点である「脈を診る」ことに深くかかわる「脈波の臨床研究」をはじめ、多くの臨床生理学的研究を続け、後輩の育成にも努力を重ねたいと存じます。

この度は荻野吟子賞をいただきました。心より感謝いたします。私たちは二十年前、ピアフラ戦争中のナイジェリアに家族とともに行き、医療協力を果たしたことがありますが、物資が欠乏し、自分たちの食べるものを確保するのも大変でしたが、そのような中で、私を驚かせたことは、ヨーロッパ、アメリカの女医・看護婦が辺鄙な所にひとり住み、働いていらつしやることでした。

吉岡弥生賞を受賞して



今 忠正

亡母今鷺子に代わりまして一言謝辞を述べさせていただきます。

本日名譽ある吉岡弥生賞の授与の栄誉に浴することができましたのは、ひとえに日本女医学会会長山崎倫子先生をはじめ、審査委員会の先生がたの特別のご配慮と日本女医学会北海道支部の先生がたの温かいお引き立ての賜物と受け止めております。心より厚くお礼を申し上げます。

母は吉岡弥生先生の女医としての教えを生ずるの目標としていましたが、平成元年一月二十五日他界いたしました。私も子供の頃より吉岡弥生先生に

荻野吟子賞を受賞して



長野支部 宮崎 安子

この度は荻野吟子賞をいただきました。心より感謝いたします。私たちは二十年前、ピアフラ戦争中のナイジェリアに家族とともに行き、医療協力を果たしたことがありますが、物資が欠乏し、自分たちの食べるものを確保するのも大変でしたが、そのような中で、私を驚かせたことは、ヨーロッパ、アメリカの女医・看護婦が辺鄙な所にひとり住み、働いていらつしやることでした。

学術研究助成を授与されて



京都支部 西川 雅子

この度は学術研究助成をいただきました。心より感謝いたします。日本女医学会の会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

私は現在、京都大学医学部眼科に所属する研究を行なっております。ま

に医療協力にいらつしやる方々がたくさんいらつしやることをお知らせするとともに、日本女医学会からも、アジア・アフリカの恵まれない人々のために働いてほしいと思われる若い女医が生まれることを、心から願っております。

特にこれからの世代を背負っていく子供たちが十分の医療も受けられないでいる間は、本当の「しあわせ」はないと思っております。

脈絡膜の方へ向かうとされていますが、最近病的網膜、特に囊腫様黄斑浮腫等におけるミューラー細胞の関与が注目されています。組織細胞化学的方法を用いることにより、ミューラー細胞の同定が容易となり、その微細な変化も観察することが可能です。今回の研究により、実験的網膜剥離におけるミューラー細胞の網膜下液吸収および網膜接着機能について、形

◆ 学術研究助成をいただいで



大阪10支部 西澤 恭子

この度、「標的細胞の性ホルモン依存性増殖の分子機構」という課題にて、日本女医学会学術研究助成を頂戴いたしました。会員の皆様は、心から御礼申し上げます。

大学卒業後、研修終了時より、ステロイドホルモンの作用につきレセプターを中心として研究してまいりました。昭和五十九年、内科から現講座に移籍してからは、性ホルモンと癌増殖をテーマとして研究を進めております。性ホルモンが癌増殖と深く関係することは、乳癌・子宮内膜癌における女性ホルモン、前立腺癌における男性ホルモンの働きから明らかです。近年、生活の欧米化に伴い、日本におけるこれらの癌は、確実に増加の途をたどっています。

さらに、性ホルモン依存性癌の特徴の一つに、ホルモン依存性の消失があります。臨床的には、ホルモン療法の効果消失ということですが、その原因にはいろいろあるかと思えますが、前述の自己増殖因子がホルモンと無関係に大量産生されることも、その一因と考えられます。この場合、ホルモン療法が無効になった

◆ 学術研究助成を授与されて



東女医学内支部 斎藤加代子

この度は、平成元年度日本女医学会学術助成金をいただきまして、ありがとうございます。日本女医学会の会員の皆様に厚く御礼申し上げます。小児科の診療活動の傍ら、小児神経学の分野において、細胞生物学、分子遺伝学の研究に携わっております。と申しましても、まったく、実験設備もないところからスタートいたしました。福山教授、横田教授の

◆ 学術研究助成をうけて



埼玉支部 児玉 浩子

この度は、日本女医学会の学術研究助成金をいただきまして、ありがとうございます。二度目の受賞(第四回にも受賞)で、今までの地道な研究が評価されたものと、大変光栄に存じております。近年遺伝子レベルの研究が進み、臨床にも利用されつつあります。私

ご理解の下に、昨年四月に研究室が完成し、遺伝子研究が可能になりました。現在、私どもの研究室では、(1)進行性筋ジストロフィー症の遺伝子診断、(2)筋ジストロフィー症マウスにおける遺伝子発現と治療の試み、そして、今回の助成金の対象となりました(3)神経線維腫症患者由来細胞の遺伝子工学的解析、を主な課題として活動を行なっております。(1)に関しては、臨床の場で応用可能な状態になり、七月十五日の日本女医学会ワークショップで報告させていただきました。

今回の受賞を励みにして、神経線維腫症をはじめとする遺伝性神経疾患の分子遺伝学的研究の発展に、力を注いでいきたいと思っております。日本女医学会のますますのご発展をお祈りいたします。

(東京女子医科大学小児科・講師)

の遺伝子解析は、ごく日常の診療の検査の一つとなるだろうとも思われます。しかしこのように医学技術が進めば進むほどに、むしろますます医師としてのあり方や、患者さんとの信頼関係について考えることが重要だろうと痛感しているこの頃です。今までは目の前の仕事に没頭しておりましたが、今後はもっと広い視野に立つて考えていきたいと思っております。

日本女医学会のますますのご発展をお祈り申し上げます。

(帝京大学医学部小児科)

定時総会千葉開催を終えて

千葉支部 日高 歐子

第三十四回日本女医学会定時総会は、平成元年五月二十日(出)、二十一日(日)千葉市千葉港、ホテルニューツカモトにて臨時理事会・定時評議員会・定時総会・特別講演会・懇親会とは

は大過なく開催する事ができました。各地より遠路ご出席下さいました諸先生方にまずはあつくお礼申し上げます。すべての行事がとどこおりに行なわれまふことと、ご出席の皆様喜んで戴けるようにと準備いたして来たのでございました。

総会終了後の白壁先生のご講演も見事なスライドに思わず息をのむ思いでございましたが、じっくりと大きな研究をされた方のお話だけに、皆様もご満足いただけただけではと思っております。

かえりみれば一昨年五月、総会千葉開催が決定致しましてより、丸二年、いささか長い日々でございました。不馴れな事というより、まったく何もわからず、名簿づくりからはじめ、連絡網をつくり、手さぐりで事を運ぶような状態でした。しかし本部ならびに事務局からの連絡・ご指導、それに先輩からの助言や協力が私どもを支え、若い方がたの熱意と努力が少しずつ活路を見出し、困難を困難とせず、ホッとした事もあ



● 会場風景

ました。それにいく人かの忘れ得ぬ人々との出会いがどれほど私どもの励みになりました事か。

観光旅行も千葉県はあまりにも広く、一日で観光というにはむずかし、見どころはあっても散在している交通事情が思うように行かず、苦心の末の行程でございました。旅行の行程がやや長すぎてお疲れになるやもと危懼いたしました。さすが日頃ご活躍の諸先生方で、クラブ「33」の晩餐まで多数ご参加いただき、折から雨のあがった夜空を背景に、エレクトロカルパレードをお楽しみいただけました事は、私どもといたし

懇親会について

総会が無事終って、ホットする間もなく、千葉支部主催による懇親会が、午後五時三十分より始まりました。

千葉支部長・日高欧子先生、日本女医学会会長・山崎倫子先生の挨拶に続き、ご来賓の方々、千葉県知事・沼田武様、千葉県衛生部長・大沢進様、千葉県医師会会長・渡辺武先生のご挨拶をいただきま

ましても、本当にうれしい事ではございました。

この度の行事に携わる事により、世話人ならびに会員たちは、それぞれの思いをいたしているとは存じますが、終わったあとの喜びを深くかみしめている事と思えます。現在の千葉支部は、百六名ほどですが、約半数は新しい会員であり、出身校も数多く、恐らくは他の地区も同じようではなからうかと考えています。これからはきつとこの若い方々の推進力が、日本女医学会の発展につながるであろう事を願いこの稿を終ります。

千葉支部 久田 タカ

県のPRが、なかなかお上手で、政治家になってもいいのではないかと思われるほどの雄弁でした。なお千葉市長の代理として環境保健衛生部長・小田泰宏様のご来賓もいただきました。なお次回の国際女医学会の主催国である韓国よりの女医さん、五名もみえました。

六時より、久保田くらの先生の乾杯の音頭により、楽しいディナータイムが始まりました。お料理の味の心配もありましたが、下見をした時の



● オペラ歌手本宮寛子さん

味よりもおいしかったので、一安心しました。

七時より、オペラ歌手本宮寛子さんの独唱および歌唱指導が始まりました。

日本の歌からは、この道、おぼろ月夜、夏は来ぬ、日記帳、落葉松。世界の歌より、会議は踊る、シェーベルトのセレナーデ、くちづけ。オペラよりヴィリアの唄、ある晴れた日に、そして、野ばらと浜辺の歌を、本宮さんの指導により皆さんで歌った時は、皆々乙女にかえった心地と思われました。山崎会長が感激され、花束を贈呈されたのが印象的でした。期待していたより好評だったのでホッとしました。

全員、名残りをおしみながら、一人一人楽しかった思いを胸にひめて、また来年、元気な姿で皆様におめにかかれる事を祈りつつ、会が無

事に終わりました。進行係を引き受けた私としては、何度も何度も下見と、検討を重ねて来たものを、いかにそれを、上手に花を開かせるか、満開でなくても、七分咲き、八分咲きでいい、美しく花を開かせたい思いで、当日は一生懸命がんばりました。参加なさった先生方より「とても心がゆきとどいて、楽しかったわよ」と言う言葉を聞いた時は、

成田山新勝寺コース

千葉支部 熊谷 貴代

やはり小雨がけむる朝となつてしまいました。昨夜の懇親会で打ちつけた皆様は総勢九十六名。二台のバスに分乗して、元気に成田山新勝寺めぐし出発しました。車中の自己紹介では、皆様なかなかの能弁多弁に笑い声が絶えず、成田までの九十分ではついに一巡せず、残り三分の一の方々は昼食後デイズニールラントへ向う車中でお願ひする有様でした。いよいよ成田山に到着。大本堂、三重塔、一切経堂を外から見学のあと、一時解散。釈迦堂、光明堂、大塔等見学の方、裏手の成田山公園散策の方、また狭いが昔のたたずまいの残る門前町へおみやげを買いに出

かくおいしいものでした。残念だったのは、このあと同じ建物の中の名画伯の筆より成る、数々の襖絵のお部屋や、二千人余を収容するといふ、真に宗教の力を感じさせる四百八十畳敷の大広間を見学できなかった。

房州コースにお伴して

千葉支部 山本みどり

Bコースは房州外房にあります鴨川シーワールドと、行川アイランドを見ていただく事でした。外房は太平洋に、内房は東京湾に面しております。

第12回学術講演研修会のお知らせ

日時 平成元年11月25日(土) 午後3時
場所 京王プラザホテル(東京都新宿)
講演者 本明 寛先生
日本心理学会 理事長
(前早稲田大学心理学教授)
演題 創造する心
懇親会 会費 五、〇〇〇円
*詳細は後日ご案内いたします。
學術部

た事です。五月という月も雨も関係して、大勢の人で混雑し、計画通りご案内できなかったのが、何とも心残りでした。昼食後は雨も上がり、名物鉄砲漬や、羊羹、落花生など土地のおみやげを手にバスに乗り込みました。

旧い門前町成田を後に、今度は近代遊園地の粋を凝らしたデイズニールラントへと、明るくなったハイウェイをにぎやかに再び出発いたしました。したが、目指すシーワールドに着きました。雨模様でしたので、大へん心配です。雨模様でしたので、大へん心配です。雨模様でしたので、大へん心配です。

お別れパーティ記

千葉支部 川村 章子

第三十四回日本女医会総会につづく観光旅行の最後を、デイズニールラントとし、この会員制クラブ「33(サーティスリー)」でお別れのパーティをしようという案は成功だったようでした。出席九十三名。雨なら中止になるはずの光のバレードも、朝の内の小雨も上り、充分楽しむことができました。

みいただきました。誕生寺門前の広瀬屋に着きました頃には、のども乾き、程よく空腹を感じておりました。その上、塩田先生、間宮先生のお口添えもありまして、あつあつの海の幸入りの「お味噌汁」なめろう「ささえのつば焼き」焼きたての「太刀魚」お刺身の盛り合せと秋葉先生の一声でビールが栓が抜かれましたが、また格別一杯でございました。

コース成田方面からは二時頃、Bコース房総方面からは五時すぎと予定通りデイズニールラントに合流しました。33の入口は覗き窓から来客を確かめてから扉を開けるといふ秘密めいた遊びのある玄関で、エレベーターで昇る二階は華麗なクラシック調の広間、控え室と、スカレット・オハラが出て来そうな雰囲気です。受付では若手の東山、河原両先生が当日まで出入りの多い名簿、席割を大車輪で整備して控えました。

開会六時、司会久田先生、開会の辞日高先生、久保田くらの先生の乾杯でフランス料理のコースに入りました。一連の行事が無事に終わりつつある安堵感がゆるやかにつろぎになって、どのテーブルも和やかに賑やかに時間が流れました。

第三十四回日本女医会定時総会に出席して

秋田支部 金子ミサヲ

日本女医会秋田県支部は、その歩みの中で小さな波紋が渦巻き、それが流れを換えて秋田県女医の会独立へとゆれ動き、急速に支部会員数激減へと結びつきました。とても残念なできごとでした。

このあと会場の灯を暗くして、一同窓に寄り、折から始まったエレクトリカルバレードを見ることになりました。デイズニールのテーマである白雪姫、シンデレラ等々の山車が光りて彩られ、流れ、動き、歌い、踊りつつゆるやかに行進してゆきます。五月間の中を遠くまで続くそのバレードをこちらの間の中で陶然と見送りながら、初めて千葉県で行なわれた総会と、それに続く一連の行事が、つつがなく終わりつつある安堵とよろこびをしみじみと噛みしめておりました。

出席〇印。日頃地方にあつて、小児科を専門とする臨床医。週休二日制の時代の中でも未だに土曜日の午後の休診にも踏みきれない哀れな女医。この時こそ大義名分、よろこび溢れる女医会出席でした。待ち望んだ総会の前夜、秋田発羽田行最終航空便に乗りこみました。五月二十日、初めての地、千葉市を訪ねました。何やら親しみのある街並を縫って、会場ホテルニューツカモトに到着いたしました。一つ一つ、心こめたご案内とご設定に、ご苦労の程が偲ばれました。午前十一時、評議員会。他の医学会では決して味わえぬもの。それは華やいだ叙智とでもいうべきか、各々の担当理事によって、それぞれの審議事項が報告され処理されてゆきます。中でも日本女医会ならではの吉岡弥生賞、荻野吟子賞の審査経過と、授賞者名の報告があり、身のひきしまる想いを感じ、また、学術研究助成金授与の知らせがありました。午後一時より三時まで総会が開催され、山崎会長熱のこもった、女医会活動についてのご挨拶がありました。中でも現在の日本女医会会員数二八五一名は、日本全国の女医数二万名の約一五%に過ぎないとのこと。今後の発展を祈ってまいりたいと思ひます。ついで、物故者黙禱にうつり、張り出された二十名のお名前中に、我が秋田の栗林孝子先生の名を見出し、

改めて哀悼の意を捧げました。つづいて、定時総会次第に従い、会務報告および事業報告、六十三年度特別会計報告など、それぞれ壇上に昇って、各理事の流麗な説明がなされました。また議事審議に至っては、議長が選出され、第一号議案、会計報告、会計監査報告と、担当理事のご苦勞を感じました。

またこの度、隣国、韓国・ソウルでの国際女医学会議開催に当たり、その案内に参加およびかけのため、五人の代表使節の特別参加があり、拍手の中に迎え入れられました。ついで表彰式にうつり、吉岡弥生賞、荻野吟子賞、学術助成金授与と、それぞれの人にふさわしい賞が与えられ、素晴らしいハイライトでした。

懇親会も一層楽しく、アトラクションでは、ひと時、その昔の女学生時代に返り、「野バラ」、「浜辺の歌」をプリマドンナの指導を仰ぎ、心ゆくまで合唱いたしました。私ごとですが、成田山・懇親会旅行も嬉しく、またデイズニールランドでは、スベースマウンテンの長い列の中に一人とびこみ、そのスリルと冒険に心酔おせました。

哀悼の辞

大村ひさる様、貴女は三十年になろうという歳月を、再起不能という烙印のもとに、言語に絶する人生苦の数々を、愚痴ひとつ漏らさず、その偉大なところに受け止めてついに逝かれました。しかも最後まで気丈な貴女は、人間の最後の宝であるご自分を見失うことなく立派に、自主的にご自分の処理をご看病の方に示

して逝かれたと承り、涙も出ない感動でございました。訃報に接してかけつけました私に示された病室は、すでに亡骸なく、その雰囲気は狼藉に近いと申しした方が適切なと思えたくらい、取り片づけられていないものでした。長い間の看病に疲れ果てていられる義妹と承る婦人、それに親戚の方と思われ

る年召した男性のお方、ただ二人が茫然と座っていられるばかりでした。みあかしをとほしてお線香を一本と思っても、それさえしつらえられていない状態でした。しかし、すでに主なき病室には、過去はもう打ち切った、といわんばかりの別の空気が漂っているのでした。それはご本人の意志そのものの

都下支部 山本 杉

第10回学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行なっております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請下さるようお願い致します。

- 一、助成の趣旨
 - 二、助成金額
 - 一件三十五万円(一五件)
 - 三、申込手続
 - (1) 応募資格
 - 入会継続三年以上経過した日本女医学会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)
 - (2) 助成期間
 - 一年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、三年以上の間隔を置く。
 - (3) 応募方法
 - 本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。
 - 一通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)
 - (4) 申込期間
 - 平成元年十二月二十五日必着
 - (5) 選考および発表方法
 - 選考委員会において選考の上、平成二年三月開催の日本女医学会理事会对して決定し、申請者宛通知する。
 - (6) 助成金の贈呈
 - 平成二年五月開催の日本女医学会総会の席上。
 - (7) 受賞者の本会に対する義務
 - 平成三年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告を提出すること。
 - (8) 送付先
 - 日本女医学会本部 千150 東京都渋谷区渋谷二一八七
 - 電話 〇三三四九八〇五七一
- *規定が一部改正されました。

日本女医学会年金のおすすめ

会員のみならず、老後の大きなゆとりをつくる近道として独自に開発した個人積立年金には、もうご加入されませんか。掛金払い込みに便利な自動引き落とし取り扱い銀行が増えました。ぜひ、この機会にご加入されたいことをおすすめいたします。

- (取り扱い銀行)
- 安田信託 富士銀行 三菱銀行 三和銀行
 - 東海銀行 青森銀行
- *お問い合わせは、日本女医学会または年金委員会へ
☎ 03-4698-0571

ようからりとしたものを感じさせる偉大な圧力のようにも感じられる空気でした。私はそのとき初めて貴女のお心のなかに燃えぬいていたあの火のような、母校、東京女子医大への執念のような思いを、ああこれだったとおもひ当たりました。ひさる様、あなたが娑婆の極限の苦しみのなかで、なお、自分を見失わず、自主的に、しかも立派に処理された最後のものは、あの女子医大への献体であったのです。ほかのことはどうでもよかったです。瀕死のその瞬間まで貴女のお心いっばいに燃えていた愛校の精神、母校を思われるあのお気持ちに健康で好きな好きな母校に教授

として縦横に活躍していられたのなら、どんなに大きな母校の一本の柱であり、守り手であったかと思いついた私の額は暈の上で大きく揺れていました。四十六年の参議院選挙の始まる前、お宅までお送りした時、私の自動車のおドアからストンと路傍に尻餅をつくように落ちられたあなたに体調のすぐれないこと、無理をしてはならないことを懇々と訴え、応援にご同伴下さるご好意は有難いけれども、とはつきりお断わりしたとき、「貴女にはわからないであろうが、ある同窓会の人々が貴女の選挙の応援にみせかけて邪魔に行くから、私は絶対にゆくのです。貴女のためというより

は母校のためです」ときっぱり言われて二の句の告げなかつた私。友の満腔の好意に感激した私はまだまだ未熟でした。ひさる様、許して下さい。私は今、あなたの霊魂が多くの女子医大の後輩の方々のところに、真実を求め、真実に生き、母校に対する愛校の何であるかをよくわかつて、母校を立派に盛り上げる者からなる下下さることを切に願ひ、貴女の魂が安らかに永遠に母校を守って下さることを念じ、ご冥福を祈り上げるのみです。大村ひさる先生、安らかに。

平瀬文子先生に感謝状

東女医学内支部 阿部 和枝

東海大学法医学教授の平瀬文子先生が、三月六日に神奈川県警察本部長からの感謝状、続いて法務大臣からの感謝状をお受けになったという事で、心からお祝いを申しあげます。

法医学を専攻する医師は少なく、ことに女性の医師は極めて少ないであります。平瀬先生はその少ない女性法医学者の先達として、法医学会においても異彩を放つ貴重な存在

であります。平瀬先生は私が昭和二十九年に女子医大法医に入りました時、講師として教室におられ、教授であつた吉成京子先生とともに指導をいただいた大先輩でありまして、ことに検案解剖の実務に特性を發揮され、東京都の監察医としてもすでに活躍しておられました。私は平瀬先生に対して中途半端な出来の悪い弟子でしたが、それでも今日、何とか監察医として働かせていただくこ

とができますのは、ひとえに平瀬先生のご指導のおかげと感謝いたしております。平瀬先生はやがて東海大学の教授となられ、神奈川県警察嘱託医となられて十五年間、その豊富な実務経験を基にさらに数多くの検案解剖を手がけられ、刑事司法の適正な運用に大いに貢献されたことは、むべなるかなといえ、大変なご努力であつたことと存じます。「遺体を相手

理事会議事録

日時 平成元年3月25日
場所 日本女医学会会館
出席者(敬称略)
山崎、小俣、佐藤、石原、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、橋川、橋本、丸山、三好、青井、明石

荒木、石川、石津、稻生、尾中、小出、小暮、柴田、白浜、中濱、南雲、野呂、森田、八木、添田、西山、山口

欠席者(敬称略)
大原、野本、藤井、関口、平瀬、福永

庶務報告
2月25日・常任理事会開催
2月28日・会費長期滞納者六十

七名に納入依頼と所属支部長に通知

連絡事項 一、労働省より第四十一回婦人週間全国会議開催案内について

会計報告 二月分別紙と報告 承認 石川理事

■会員著書紹介

松本文絵著『幸福な性』を読んで 大原 一枝

京都支部の会員、松本文絵さんが昨年七月、表題の本を出版した。

〈広報部〉 久保田常任理事 3月14日広報部会開催

〈学術部〉 橋本常任理事 学術研究助成申請者四名。全員に授与と決定。

午後二時三十分～五時 会場 東京女子医科大学 臨牀講堂(1)

理事会議事録

日時 平成元年4月15日 場所 日本女医学会会議室

出席者(敬称略) 山崎、大原、小俣、佐藤、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、藤井、丸山、三好、青井、明石、荒木、石川、石津、稲生、小出、小暮、白濱、中濱、南雲、野呂、森田、八木、添田、西山、山口

欠席者(敬称略) 石原、尾中、柴田、関口、平瀬、福永

庶務報告 3月25日 理事会開催 八木理事

3月28日 厚生省人口問題審議会総会に山崎会長出席

3月30日 国際婦人年全体会議に佐野常任理事出席

4月7日 国際婦人年連絡会国際部会に佐野常任理事出席

4月13日 昭和六十三年度会計監査

資料添付 昭和六十三年度会費長期滞納退会者名 名簿勘定収支報告および広告

一、藤井儔子(帝京・医・薬理) 「妊娠中投与薬物と子孫の機能異常」動物実験を中心として

二、斎藤加代子(東女医大・小児) 「進行性筋ジストロフィー症家系の遺伝子診断」

三、中村道子(東邦・医・精神神経) 「分裂病の遺伝子研究」

四、石津澄子(東女医大・前教授) 「環境因子と遺伝素質」

Table with financial data: 一、平成元年度予算案 (各部からの要望額について検討) 二、研究助成費 三、ワークショップ費

Table with financial data: (1) 俸給諸給諸手当 二、五〇〇,〇〇〇円 (2) 法定福利費 一、一〇〇,〇〇〇円 (3) 厚生福利費 一〇〇,〇〇〇円

別紙規定改正案について検討、継続検討とする。 荻野吟子賞規定 別紙規定について検討し下記のとおり改正する。

緊急理事会議事録

日時 平成元年5月20日(土) 場所 千葉市・ホテルニューツカモト

出席者(敬称略) 山崎、大原、小俣、佐藤、石原、久保田、佐野、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、藤井、丸山、三好、青井、明石、荒木、石川、石津、稲生、小出、小暮、白濱、関口、中濱、南雲、平瀬、森田、八木、添田、西山、山口

欠席者(敬称略) 尾中、柴田、野呂、福永

山崎会長より緊急理事会開催の経緯について説明あり。

一、平成元年度一般会計収支予算書について

四月理事会において会計部に一任

・定 価 今後検討 (2) エリトリア地域(エチオピア北部)への医療援助について

料協力会社名 承認 中濱理事 承認 三、三月分別紙と報告 小暮理事

各部報告 (広報部) 小暮理事

日本女医学会誌百十八号近日日発送予定。

〈事業部〉 橋川常任理事 「日本女医学会年金ご加入のおすめ!」パンフレットを安田信託銀行が作成し寄贈。

〈学術部〉 橋本常任理事 第三回ワークショップについて

日時 平成元年七月十五日(土) 午後二時三十分～五時

会場 東京女子医科大学・臨牀講堂(1)

テーマ 環境と遺伝 演者 および演題

一、藤井儔子(帝京・医・薬理) 「妊娠中投与薬物と子孫の機能異常」動物実験を中心として

演題 創造する心 (当日吉岡弥生賞受賞者業績発表も行なう予定) (国際女医学会) 藤井国際連絡書記 第二十一回国際女医学会について

一、登録費は五月末日まで据え置く。 (2) ヤング・フォーラム出席の井尾裕子会員(豊島支部)へ十万円を補助。

二、総会について 総会および評議員会次第について

三、吉岡弥生賞規定について 別紙規定改正案を検討し決定。

四、その他 (1) 日本女医史について 日本女医史編集委員を追加選出する。

明石み代、荒木律子、稲生 襲小暮美津子、野沢良美 発行予定部数 三千部

評議員会議事録

されたII管理費、6の通信費三、五〇〇、〇〇〇円と7の什器備品費一、三〇〇、〇〇〇円を承認。退職給与引当支出(中退金掛金)は、特定預金支出から管理費に移行する。承認

副会長(庶務担当) 佐藤 庶務部 白橋、二好、荒木、南雲、八木

日時 平成元年5月20日(土) 場所 ホテルニューツカモト(千葉県千葉市千葉港七一)

午前十一時五分開会

荒木律子

司会 社団法人日本女医学会評議員会開会に際し

評議員数 一一三名

出席数 七一名

記名委任数 一七名

白紙委任数 一二名

以上のとおり日本女医学会定款第二十七条の定足数に達し、評議員会が成立する旨の報告あり開会を宣す。

オプザーバーとして宮城支部より三品房子、青葉祐子、増子道子(事務員)各氏の出席を承認する。

会長挨拶 山崎倫子

報告 一、会務報告及び事業報告

南雲君代 配布すみの資料にもつき報告。二、昭和六十三年度特別会計報告 石川文子

吉岡弥生賞基金会計 国際女医学会記念事業基金会計 年金会計 ルーペンゲン会計

以上について配布すみの資料にもつき報告。議長選出 岸 よし

議長着席

議事録署名人選出 脇田昌子

議事

第1号議案

一、昭和六十三年度一般会計収支計算書 青井禮子

配布すみの資料にもつき説明。原案どおり可決

二、剰余金処分案 青井禮子

次期会計へ繰り越すことを原案どおり可決。

会計監査報告 添田百枝

監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり。

第2号議案 平成元年度事業計画案

(庶務部) 八木貞子

会員増加推進 橋本葉子

(学術部) 講演研修会

研究助成 ワークショップ

(事業部) 白浜光子

へき地診療への助成 公衆衛生活動

支部助成 荻野吟子賞

年金 ルーペンゲン

(渉外部) 森田和子

国内および国際交流

(広報部) 小暮美津子

機関紙の発行 以上原案どおり可決

第3号議案 平成元年度一般会計収支予算案

中濱昌子 原案どおり可決

第4号議案 次期および次々期総会開催について

次期開催地 宮城支部 山崎倫子

次々期開催地 東京

原案どおり可決 閉会を宣す。

午後零時十五分開会

議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の署名捺印。

平成元年五月二十日

議長 長岸 よし

議事録署名人 脇田 昌子

評議員(敬称略) 北海道支部 武田正子

予備評議員(敬称略) 北海道支部 一戸茂子

新宿支部 岡田トモ

入会会員(敬称略)

会員動静

北海道支部 山崎倫子

宮城支部 山本蒔子

世田谷支部 福島美智子

都下東支部 中村道子

神奈川支部 谷口ミホ子

益田泰子

集記 編後



雨に打たれて咲く紫陽花の美しい季節となりました。本号は大原一枝先生の元氣溢れる巻頭言、第三十四回日本女医学会定時総会が五月二十日(千葉市、ホテル・ニューツカモト)にて開催され、全国から二百名以上が参加されました。会長の微に入り細にわたっての挨拶、議事録、各種受賞者の感想と希望、千葉支部の方々の心こもれる歓迎の数々が盛沢山に掲載され、総会特集号の観を呈しました。

加えて山本 杉先生の名誉会員大村ひさる先生への「哀悼の辞」は胸せまる貴重な名文にて感きわまりました。

平瀬文子先生には神奈川県警察本部長からつづき、法務大臣から感謝状を受けられた由、永年のご苦労が報われて何よりと思いました。今後のご活躍を祈ります。

総会への地方からの参加者はまだ

北海道支部 武田正子 山口とも

百瀬貞子 梅谷和子

土田真美子

宮城支部 山本蒔子

世田谷支部 福島美智子

中村道子

谷口ミホ子

益田泰子

長野支部 宮崎安子

京都支部 松本美智子

新卒入会会員(敬称略)

愛知支部 酒井幹子

物故者(敬称略)

静岡支部 石川愛子

島根支部 大屋 孝

まだ少ないようです。次年度あたりから評議員会を前夜位に開き、ゆっくりと地方のお話をきく場を持つやに聞いておりますが、実現の運びになるとよいと思っております。

来年は仙台市が開催地となる由、昭和四十年開催から二十五年ぶりとなるわけで今から楽しみに致しております。地方開催によりその地の事情がよく分かる上に会員の自覚も向上するのではないのでしょうか。千葉県にしても近く幕張メッセなるものができ、政令都市を目ざして躍進との事、驚かされます。最後に会員の倍增を念願しあごと致します。

(編集委員・稻生記)

平成元年7月20日 印刷

平成元年7月25日 発行

編集人 久保 田 くら

発行人 日 本 女 医 会

発行所 東京都渋谷区渋谷2-1-8

8-17 青山宮野ビル

社団法人 日本女医学会

TEL(498)〇五七

TEL(498)〇五七

制作 東京都文京区水道1-5-16(815)六六六一

株式会社 金剛出版